

「ヒュッゲ(hygge)な時」をチャペル・アワーで

小 谷 正 登

私が2009年4月から約1年間を過ごした北欧の一国デンマークは、九州とほぼ同じ国土に、兵庫県の人口と同じ数の国民が生活する小さな国です。デンマークと聞くと、アンデルセンの生誕国、おとぎの国そして福祉大国という言葉で連想されるでしょう。一方、この国は豊かな農業国であり、デザインと実用性を兼ね備えた食器や家具を生産する優秀な技術立国の一面も持っています。私は、同国第三の都市オーデンセ市から約30km離れたホースレウという田舎町に民家を借りて過ごしました。オーデンセ市でさえ午後6時頃には大半の店が閉まり、原則として日曜日は全ての店が休みます。そして、私の家から最も近い「スーパー」も6kmほど離れていました。スマートなイメージとは異なるこの国の素朴な生活に戸惑いながら、デンマーク人の時の過ごし方に触れる機会が多々ありました。デンマーク語には、ヒュッゲ(hygge)という言葉があります。この言葉は、「人と人とのふれ合いから生まれる、居心地のよい空間・時間」という意味を含み、デンマーク人はこの言葉が大好きです。北欧諸国の中で最も南にあるとは言え、冬季には寒さが厳しく、午後3時頃には暗くなり始め長い夜が訪れます。人々は早々に帰宅し、ろうそくの灯をともし家族とともに時間を過ごします。ある婦人の「どうして、こんな豊かな時間を買い物や仕事に使ってしまうの!」という言葉が、とても印象的でした。日本の生活は便利で無駄が無く、そして一晩中電気の光が輝き、「のんびりなんてしてられない、何かしないと…」という言葉が聞こえてきそうです。さて、2年ほど前、高校生を対象にした講演会の講師をしたとき、「コンセンサス・ゲーム」というコミュニケーション能力の向上を目的とするゲームを行いました。お互いの意見を出し合いながら、時間をかけて合意を作り上げていくものです。講演終了後に数名の生徒が、「今までこんなに時間をかけて人の考えを聞いたことがなかった。いつも、早く決めなさい、急いぞと言われていたから」という言葉をかけてくれました。デンマーク人の時の過ごし方と同様、人を理解し自分を伝えるためには「ゆったりとした時間」と「居心地よさ」が必要なのでしょう。このチャペル・アワーで、デンマーク的な時の過ごし方を体験してみたいかでしょうか。

(教職教育研究センター教授)